

# くらしは どこへ 何処へ

公報にみる戦時下神戸

6

「鬼畜」ときげすんだ米軍について、「進駐軍を迎ふに當つて 我等の心構へ」と題した文には、緊張感が漂う。

家屋や倉庫の戸締りは厳重にし、特に婦女子のみの家庭は晝間でも注意すること

米軍が神戸や西宮、姫路などに進駐して1カ月後の10月25日付には「心の広い、颯爽たる米國進駐軍」と題した一問一答形式の記事が巻頭を飾る。

米軍日本上陸當時の種々の噂が悉くデマであつたことが分つたと思ひます

泥酔した兵による暴行が数件あつたもの大したことではなく、皆、対応は紳士的と、市外務課職員は答える。市内に約3300人の将兵がいることや、米兵向けの慰安施設が4カ所にあることも伝えている。

市民時報は戦後をどう伝えたのか。

女子挺身隊として勤勞奉仕が求められ、男女の区別なく総動員された戦時下。その空気は一変したかのようだ。「女性は大勢は下りました、赤子我等をあはれみ大和民族百年の將來を全ひ給ひて悲しき淋病は遂に下りました。我等は強しみて、従ひ奉るのみであります。市民諸君、我等は大御前、皇軍はゆるがず、神戸は不滅。今こそ日本人の名の下に互に堅く手をつなぎ、一掃亂れや、苦難の嵐を逐ひこそ、大御前に奉る所以と信じます。市民諸君、神戸市は、大楠公忠實の旗を掲げ、此地こそ、新日本の本拠地なければならぬと願ふに更には立ち。戦時下の神戶市長中井一夫

「鬼畜」ときげすんだ米軍について、「進駐軍を迎ふに當つて 我等の心構へ」と題した文には、緊張感が漂う。

家屋や倉庫の戸締りは厳重にし、特に婦女子のみの家庭は晝間でも注意すること

米軍が神戸や西宮、姫路などに進駐して1カ月後の10月25日付には「心の広い、颯爽たる米國進駐軍」と題した一問一答形式の記事が巻頭を飾る。

米軍日本上陸當時の種々の噂が悉くデマであつたことが分つたと思ひます

泥酔した兵による暴行が数件あつたもの大したことではなく、皆、対応は紳士的と、市外務課職員は答える。市内に約3300人の将兵がいることや、米兵向けの慰安施設が4カ所にあることも伝えている。

## 敗戦

1945(昭和20)年8月15日。京都帝国大生の矢木勉さん(91)東灘区IIは、岡山から戻る汽車の中、人づてに終戦を知った。車中では敗戦を容認できない兵士が殴り合いをしていた。灯火管制下では闇に覆われた神戸はその夜、明かりが漏れていた。「本当に終わったんだな」

8月15日付で止まっていた行政公報「神戸市民時報」は、9月25日付で中井一夫市長が「神戸市民に告ぐ」と題し、終戦を受け入れるよう求めた。

この頃の出来事	1945年	野田文一郎市長辞任
	7月	中井一夫市長任命
	8月	ボツダム宣言受諾 学徒動員解除
	9月	市役所機構改革(文化課復旧課など設置) 市復興本部設置
	10月	小学生集団疎開引き揚げ 三宮-神戸駅間の約2キロに闇市出現

大勢は下りました、赤子我等をあはれみ大和民族百年の將來を全ひ給ひて悲しき淋病は遂に下りました。我等は強しみて、従ひ奉るのみであります。市民諸君、我等は大御前、皇軍はゆるがず、神戸は不滅。今こそ日本人の名の下に互に堅く手をつなぎ、一掃亂れや、苦難の嵐を逐ひこそ、大御前に奉る所以と信じます。市民諸君、神戸市は、大楠公忠實の旗を掲げ、此地こそ、新日本の本拠地なければならぬと願ふに更には立ち。戦時下の神戶市長中井一夫

## 一挙に変容する空気感

市民時報はこの日付が最終号となる。新たな行政公報として「神戸市公報」が11月15日付で復刊される。第1号では、市顧問賀川豊彦の講演要旨が3次にわたつてある。

日本は敗戦と云う悲しい事實を慈愛の道にかへるならば日本の勝利である。敗戦は決して悲観するものではない、武装解除は文化であり、進化である、武装は發展を阻害する

(長嶺麻子) — おわり —

敗戦後の市民時報で、当時の市長が市民にあてた文(1945年9月25日)

皆さんの「戦時下のくらし」を教えてください

お名前、連絡先を添えて、ファクス(078・360・5501)かメール(kobe-ban@kobe-np.co.jp)でお寄せください。